

# 使える英語プロジェクト NEWS

(第19号)

## 楽しみながら英語や異文化にふれる体験

### 学びングキャンパス@関西外大英語村 開催



11月3日(土)、関西外国語大学中宮キャンパスで、英語村を開催しました。北河内地区の各市より、小学生約80人が参加しました。



はじめに、全員が1つの部屋に集合し、その日使用する簡単な英語表現について音楽にあわせて練習しました。その後、4つのグループに別れ、学生リーダーや外国人留学生と英語を使ったゲームや活動を行いました。

この日の活動は、2020年オリンピック開催地が東京に決定されたことから、各種スポーツをヒントに発案されたものでした。

身体を動かしながら英語を使う場になるよう工夫されており、あるブースでは、バレーボールのようにボールを落とさないようにパスしながら単語のつづりについて学んだり、別のブースでは、バスケットボールのドリブルをしながら外国人留学生のところに行き、英語の質問に答えると先に進んでボールをシュートしていました。

ゴールを決めた子どもは“I got it!”など、教えてもらったフレーズを身体いっぱい使って表現していました。



平成26年3月には、近畿大学にて英語村を開催する予定です。詳細が決まりましたら、各市町村教委を通してお知らせします。

# アウトプットの高める授業とは

## 使える英語プロジェクト 第2回WG（中学校編）

「使える英語プロジェクト」第2回ワーキング会議を11月18日（月）に開催しました。中学校英語科担当者及び市町村教育委員会担当指導主事対象に、約80名の参加がありました。

### ☆ 研究実践校の授業で行う「ストップ・モーション方式」授業分析 ☆



富田林市立明治池中学校にご協力をいただき、同校の 有馬 麻子 教諭の中学校3年生の授業を撮影し、前回の第1回WG会議で学んだ「ストップ・モーション方式」の授業分析手法にしたがって、その授業のようすを参加者全員で見て、討議を行いました。

### ☆ ゴールを明確に、バックワードで構成する授業 ☆

はじめに、有馬教諭から英語科の取組みについて説明いただきました。各学年のゴールを明確にし、その目標から逆算し、各単元で行う活動を設定する、いわゆるバックワードで単元を構成して、子どもたちにアウトプットの機会を設けていること。また、各単元の最終に行う活動をはじめに設定してから、各授業で、どんな活動をとおして力をつけていくのかを決定していることなどが取組みのポイントとして示されました。

### ☆ リズムとテンポのある授業 ☆



授業内容は、ディベートに必要な論理的な考え方を身につけることを単元の到達目標とし、1つの話題について、賛成・反対の両面から、まとまりのある正しい英語で意見を書く活動を設定していました。講師の関西外国語大学 中嶋教授からは、ディベートでは、用意した意見を述べて終わるのではなく、物事を両面から見る力をつけることが大切であるご指導いただきました。また、ディベートを円滑に行う具体的な手法として、相手の立論をあらかじめ見せて、次の対論につなげていくことなど助言をいただきました。

そのほか、授業にはリズムとテンポが重要であり、「個人の活動」と「ペア活動・グループ活動」の時間をバランスよく設定することがよい授業づくりにつながるとお話しいただきました。また、「個人の活動」では自分の考えをしっかり持たせるようにし、「ペア活動・グループ活動」では自分の考えを伝えたり、他者の話を聞いたりさせれば、「個人の活動」の必然性が高まり、その後再び「個人の活動」に戻すことで、言って終わり、聞いて終わりの活動にならず、学びを深めることができるともお話しいただきました。

# creativity (創造性) のある授業とは

## 使える英語プロジェクト 第2回WG (小学校編)

「使える英語プロジェクト」第2回ワーキング会議を、11月25日(月)にも開催しました。小学校外国語活動担当者及び市町村教育委員会担当指導主事対象に、約110名の参加がありました。

### ☆ 実践研究校の授業で行う「ストップ・モーション方式」授業分析 ☆

寝屋川市立国松緑丘小学校にご協力をいただき、同校の美藤 健児 教諭の5年生の授業を撮影し、「ストップモーション方式」を活用して、その授業のようすを参加者全員で見て、討議を行いました。

### ☆ 外国語活動における課題解決型の授業 ☆



美藤教諭からは、所属校における「国際コミュニケーション科」の取組みと、児童が単元をとおして課題解決のために必要な表現に慣れ親しむことで、学んだ表現を使用する必然性が高まる、課題解決型の授業について説明いただきました。今回の単元では、交流のあるイギリスの学校に、日本の学校、学校生活について紹介するビデオを作製することを単元の到達目標とし、紹介文の型となる表現をチャンツを通して慣れ親しむ活動を行いました。

### ☆ 思考のある活動と相手を大切にすることの意識の育成 ☆



講師の大阪樟蔭女子大学 菅先生からは、外国語活動を魅力的なものにする観点から、ワークショップ形式でご講義いただきました。「1分間のほめあい」「10 little pumpkins の替え歌づくり」「指でアルファベットを作る」等の活動では、どのグループも笑顔があふれ、歓声があがりました。

また講義では、活動に creativity (創造性) を取り入れ、思考のある活動を行うことで、学習者の取組み意欲が高まること、そのような活動を組み込むことで、子どもが主役となる外国語活動の授業を行うことができること、コミュニケーション能力を育成するには相手を大切にすることの意識を育てることが大切といったこととお話いただきました。

さらに、teachers talk や読み聞かせを取り入れると、子どもの聞く力が伸びるという話もしていただき、これからの授業に役立つたくさんの示唆をいただきました。

### 編集後記

2学期には、多数の実践研究校で公開授業が開催されました。これまでに89校において公開授業が行われており、どこの学校も「活用の時間」「習得の時間」を意識した授業が行われています。児童・生徒がいきいきと英語を使う姿や、学んだ表現を使ってオリジナルの英文を話したり書いたりする活動、見本や台本に頼らずにコミュニケーションを行う活動など、「使える英語プロジェクト」の成果が、子どもたちの姿となって表れています。この成果を地区や市内で共有するなど、広く普及していただければと思います。